

伐木技術普及研修会の開催について

1 はじめに

昨年、岩手県内では全国最多となる5件の林業死亡労働災害が発生しています。5件のうち3件はチェーンソーによる伐採作業に起因するものであり、伐採作業者の伐採技術とともに安全意識の更なる向上が求められています。

そこで、管内の林業事業体の若手伐採作業者を対象に、伐木技術普及研修会を開催しましたので、その概要を紹介します。

2 研修の内容

令和4年6月14日(火)、花巻市高松の花巻市有林間伐作業現場において、岩手県伐木技術指導員の小原孝氏(花巻市森林組合)を講師に迎え、5事業体7名の若手作業者が参加し、下記のとおり実施しました。

(1) チェーンソーの状態確認

伐れる刃の目立てとはどのようなものか。日頃のメンテナンスは、どんなタイミングで行うのか。状態を見極め適時に行うことが望ましいが、会社として日を定め皆で定期的に行うことも良い。

(2) 正確な伐倒方向の作り方

受け口の方向や水平がずれると正確な方向に伐倒することは出来ない。木の傾きや重心も考慮すること。クサビを適切に使用することも重要。

(3) かかり木処理について

研修者が普段行っているかかり木処理の方法を確認し、その上で絶対にやってはいけない行為として次の2点を強調。

① かかり木を放置しないこと

② かかっている木を伐らない(危険な元玉伐りをしない)こと

実際に現地でかかり木を発生させ、かかり木と控え木にベルトを掛け、動滑車を使用して離れた場所からかかり木を引き倒すという処理方法を検証。



3 おわりに

講師は、「同じ伐採作業に携わる仲間として、伐採作業で危険な思いをさせたくない。死んで欲しくない。」

「危険な元玉伐りをするのは自分のためか、会社のためか。いくら会社から急げと言われても、自分の能力を超えるような作業を絶対にしてはいけない。事故を起こせばその会社にも迷惑を掛けることになる。」と参加者に語りかけていました。

伐採時のミスは取り返しのつかない事故につながる危険性があります。林業労働災害の撲滅に向け今後も研修会を開催し、作業員の伐採技術の向上と伐採作業における安全意識の徹底を図っていきます。